

南無阿弥陀仏は 私のいのち



平成 28 年
3 月号

NO.
458

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19

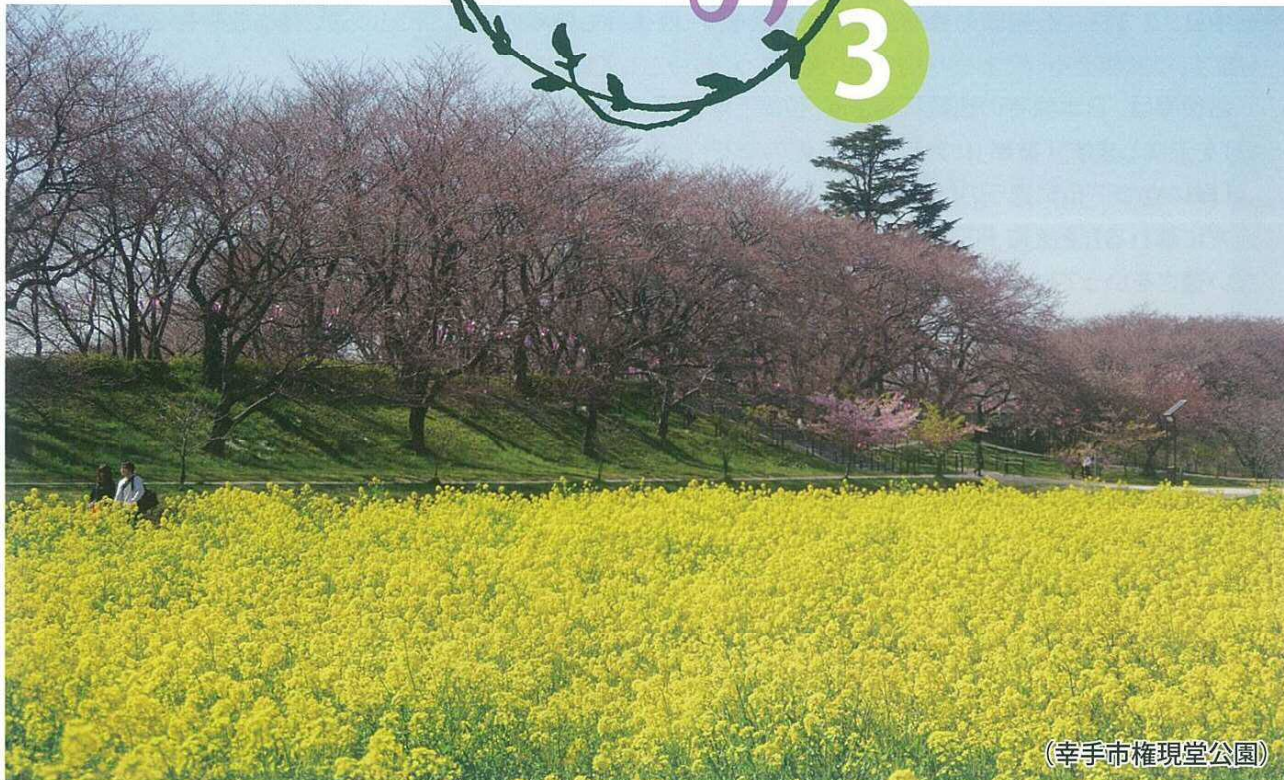
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺

TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796

<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

発行人 脇阪 義幸

印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(幸手市権現堂公園)

制 約

昨年末に無事結婚をし、長い間慣れ親しんだ独身生活を卒業して、夫婦生活を始めることとなった。新しい環境は新鮮であり、毎日が楽しく刺激的である。何より明かりのついている家に帰るといのは、独身生活では味わうことのできない、とてもいいものであると感じている。

結婚をして、全てのことに満足しているかというと、そうとも言切れない。今までの生活では、自分の趣味や都合を優先して生活をしてきた。欲しい物を買いたい所へ行き、好きな物を食べる。そんな当たり前にできていたことが、当たり前でなくなっている。二人分の生活費や家賃を苦慮したり、将来を考えて貯金をし、休みの日は二人で出かける。今までにはなかった制約を強いられるようになった。

私たちは日常生活の中で、いつも他人と比べたり、過去の自分と比較して一喜一憂している。今の自分の環境に満足できず、ありのままを見ることができない。そういうたえず他と比較してばかりで、現状に満足できない在り方を、親鸞聖人は「邪見憍慢の悪衆生」という言葉で表される。念仏の教えは、決して悪い人がいい人になる教えではない。いつも何かと比べてばかりで、自分自身を本当に問題にすることができない。そういう私を照らし出すのが、南無阿弥陀仏のはらたきである。どこまでも自己に暗いすがたが照らし出され、そのすがたを「悪」といいあてられている。結婚を通して、あらためて自分の在り方が問われている。

(蓮井 邦宗 記)

春季彼岸会・本山差向布教のご案内

「暑さ寒さも彼岸まで」と言い尽くされた言葉であります、今年は3月17日(木)彼岸入り、20日(日)お中日、23日(水)結願の春季お彼岸を迎えます。西徳寺も例年の如く、下記の通り春季彼岸会をお勤め致します。ご家族そろってお参りくださいますよう、お待ちしております。

お彼岸は、日本独特の仏教行事です。彼岸とは梵語の「波羅蜜多」、訳して「到彼岸」の略でお浄土(仏の世界)を意味します。「彼岸」に対し、こちら側の岸を「此岸」(我々の住む世界)といいます。

「岸に立つ 仏に遇うのは 此の岸で 私が途方に暮れるとき」(榎本栄一)
途方に暮れるたとえに「日暮れて途遠し」があります。歩いている道が遠いではありません。道が見つからない遠さをいっています。歩いてきた道は、四苦八苦の渦の中、足跡も残らぬ流転の姿です。気がついたときには日暮れが近く、言い知れぬ不安と孤独に落ち込んでしまいます。

しかし、まだ間に合います。南無阿弥陀仏の教えを聞いてください。師(私の周りの全ての人)に出遇って下さい。生死の迷いを超える道こそ、彼岸への大道です。わが身を託する道です。お彼岸はその日、太陽が真東から昇り真西に沈むことから、西方の十万億土の地にあるとされる浄土を願う(欣求)ことが始まりであり、同時にお浄土に還られたご先祖を偲び、墓参りをするという習慣が定着してきたのです。お念仏の教えをいただく私達は、「忙しい」と走り回る足をしばし休めて亡き人を訪らい、限りある命の中に限りなき寿をいただいて今を生きる私が、自己に目覚め仏法に遇うご縁と致したいものです。

記

平成28年3月22日(火)

午前10時 聖徳太子奉讃会
法話
午前11時30分 合唱団「エコー」演奏会
正午 お齋
午後1時30分 春季永代経法要
法話
本山差向布教使 仲井 秀明 師
(滋賀県・草津市・常教寺住職)

※準備の都合上、お齋をご希望の方は
3月10日(木)までに葉書でお申し込みください。



日誌

1月16日 定例聞法会
1月17日 評議員会新年会 参加者23名
1月19日 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師
1月23日 社交ダンス練習会
混声合唱団「エコー」練習
同行会新年会 参加者11名
1月26日 責任役員会・総代会
仏教青年会『歎異抄』に聞く 講師 宗 正元師

1月27日・28日 宗祖忌
2月4日 東京教区新年会
2月6日 社交ダンス練習会
混声合唱団「エコー」練習・
新年会 参加者29名
2月7日 城東ブロック会聞法会
(市川八幡神社・参加者22名)
2月7日・8日 中興忌

親鸞さんのことば

自力称名のひとはみな

如来の本願信ぜねば

うたがうつみのふかきゆえ

七宝の獄にぞいましむる

『疑惑和讃』

松井憲一

おみくじは、インフレ化して、大吉の上に大大吉ができて大凶がなくなりつつあり、絵馬は、外国人観光客の多い寺社では、英語・中国語・タイ語・ハンゲルなどで書かれたものも増えているといわれます。「安産と ポツクリの絵馬 並んでる」「百円であんただけだけ 拝むのよ」という川柳もありました。真宗の教えを聞いて縁起を担ぐ必要がなくなった門徒は、「門徒物知らず」ではなくて、「門徒物忌み知らず」であるから、自分はそのような迷いはしなと思っていますのではないのでしょうか。

しかし、親鸞聖人は、お参りしても、自分の思いで念仏する人は、「自力称名」であるといましめられます。

「自力称名」は、お念仏が、如来の本願の呼びかけであつたものと意味を忘れて、称えることを自分の手柄にしますから、心を込めるほうがいい、たくさん称えるほうがよい、そのほうが先に救われるであろうと勝手な予測をして称えます。だから、称えて思うようにならないと、称えることをおろそかにし、時には辞めようとさえ思いますから、お念仏しながら、お念仏になつていけないのです。

「わたし」のお念仏は、自分の思い込みをはなれませんからいつも「自力の称名」になります。如来の本願の広大さをどれほど感じて、そこに自分の思いがはいると、有効になりません。自力が有効にならないのは、人に対しても同じで、贈り物をする気持ちも思うほどは贈れず、相手も自分の思いで見ますから、贈る心もそのまま伝わりません。自力の行為は、いつも空振りに終わるから本願に遇えるので、有効になると危ない関係になります。

この自分の思いでしか関わらないわれらを平等に救うために、まことの国に迎えとろうと立ち上がった「如来の本願」が、称名となつてわた

しに実現しているのがお念仏です。その称名の現実、如来から与えられている回向の事実気づかず、自分のはからいで受け止めて、懺悔もなく称えているのが「自力称名」です。それで、「自力称名のひとはみな 如来の本願信ぜねば」と自分のはからいで称えるのは、自分を信じているのであつて、如来の本願を信じないことだといわれるのです。

如来の本願を信じないのは、自分の心をよしとして如来の心に気づかないことです。から、「うたがうつみのふかきゆえ」といわれます。だから、本願を信じない、うたがうつみのふかさは、底が知れません。底がみえない疑いの心は、自力では見えません。如来の本願に照らされ、いましめられて、始めて見えるのです。それで「うたがうつみのふかきゆえ 七宝の獄にぞいましむる」といわれるのです。

「七宝」は、金・銀・瑠璃・玻璃・硨磲・珊瑚・瑪瑙の七種の宝石のこと、立派なことをあらわします。ところが、その七宝が「獄」だといわれます。「獄」は、牢獄のことですから、自由がなく、閉ざされて外の見えない

い世界です。七宝が獄だといわれるのは、お宝に囲まれて宮殿にいると思つていても、それは自己満足しているだけの狭い世界だと教えられるのです。それで、七宝につながれて、そこから一步も出ることなく、如来にも、人にも出遇えない、孤独の世界にいるのだと早く気づけといわれるのです。その教示に、救われ難い疑いばかりの自力称名の自分であつたと深く認めて念仏できるのは、「うたがうつみのふかきゆえ 七宝の獄にぞいましむる」という如来の本願がわたしにはたらいているからであります。



山門の言葉

人生には三つの坂がある。 『上り坂・下り坂・そして…』



人生には三つの大きな坂があると
いう。「上り坂」「下り坂」そして一番
大きな坂「まさか」である。日々変わ
らないことが当たり前と過ごす、高
慢な人生。何の保証もない事に気づ
かず、思い上がって有頂天で過ごす
毎日。「明日の朝、あの人に電話して
…」来週の土曜日、食事会があるん
だけれど何を着て行こうかしら」と
スケジュールいっぱい毎日。朝の
あいさつ「おはようございます」、今
朝も目がさめた事は当たり前。あり
がたさを忘れ、朝からブツブツ。夜の
あいさつ「おやすみなさい」、今日も
あったか我が命。この不思議さにお
礼申さずブツブツで終わる一日。

人生には三つの大きな坂があると
いう。「上り坂」「下り坂」そして一番
大きな坂「まさか」である。日々変わ
らないことが当たり前と過ごす、高
慢な人生。何の保証もない事に気づ
かず、思い上がって有頂天で過ごす
毎日。「明日の朝、あの人に電話して
…」来週の土曜日、食事会があるん
だけれど何を着て行こうかしら」と
スケジュールいっぱい毎日。朝の
あいさつ「おはようございます」、今
朝も目がさめた事は当たり前。あり
がたさを忘れ、朝からブツブツ。夜の
あいさつ「おやすみなさい」、今日も
あったか我が命。この不思議さにお
礼申さずブツブツで終わる一日。

人生には三つの大きな坂があると
いう。「上り坂」「下り坂」そして一番
大きな坂「まさか」である。日々変わ
らないことが当たり前と過ごす、高
慢な人生。何の保証もない事に気づ
かず、思い上がって有頂天で過ごす
毎日。「明日の朝、あの人に電話して
…」来週の土曜日、食事会があるん
だけれど何を着て行こうかしら」と
スケジュールいっぱい毎日。朝の
あいさつ「おはようございます」、今
朝も目がさめた事は当たり前。あり
がたさを忘れ、朝からブツブツ。夜の
あいさつ「おやすみなさい」、今日も
あったか我が命。この不思議さにお
礼申さずブツブツで終わる一日。



第 318 号

❀ ～標語カレンダーに聞く～ (2016 年 3 月号)

「生きとしいくるものすべて この御光(みひかり)のうちにあり」

闇を破るのが光のはたらき…知識や情報が溢れ、経験を積み重ねる日々を送る私にとって、闇の真っ只中ということは容易には領けない。

たとえ足元をすくわれるような出来事に落胆し、当てにならないものにしがみついていたと知らされながらも、再び自分で確かなものを求めて彷徨う生き方そのものを流転と言いつける。

「わかっちゃいるけどやめられない」のは植木等だが、「わかっちゃいない」と呼びかけ続けるのが御光のはたらきである。御光との出遇いは闇との出遇いに他ならない。

(山崎 哲)

❀ 次回聞法会ご案内

日 時 平成 28 年 3 月 9 日(水) 午後 1 時～ 3 時
場 所 西徳寺 星月の間
法 話 標語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)
「信心ひとたびおこりなば、^{まよひ}煩惱^たを断^{すくい}たで涅槃あり」
最高顧問 大谷 義博・山崎 哲

❀ 婦人会総会・懇親会のご案内

日 時 平成 28 年 4 月 27 日(水) 午前 11 時
場 所 総会 本堂
懇親会 梅檀の間
会 費 無料
締 切 4 月 20 日(水) お弁当予約のため、必ず申し込んで下さい。
年会費 3,000 円

❀ ひとこと

冬の朝は、月と金星がペンダントのように輝いています。一年近く、40 分のウォーキングをリハビリの為に続けています。筋肉を増やすと足にも、健康寿命を延ばすのにも良いそうです。

1 年 4 ヶ月前駅前で転び、大腿骨骨折で人工関節を入れる手術をして 2 ヶ月入院しました。「要介護 1」と認定され、老後の介護について考えてしまいました。

今は歩けるようになり、皆さんに迷惑をかけてしまいましたが、皆さんの親切に感謝の毎日です。

(改田 逸子)



掲示板 平成28年3月

5日(土)	午後1時	社交ダンス練習会
	午後2時	評議員会定例役員会
	午後3時半	混声合唱団「エコー」練習
	午後6時	同行会「現代の聖典」に聞く 法話 蓮井 邦宗
6日(日)	午後2時	城北ブロック会間法会(王子・北とぴあ)
8日(火)	午後4時	総代会
	午後6時半	仏教青年会レクリエーション 「ボウリング大会」
9日(水)	午後1時	婦人会間法会
10日(木)	午前10時	仏具磨き
12日(土)	午後1時	社交ダンス練習会
	午後3時半	定例間法会
	午後3時半	混声合唱団「エコー」練習
15日(火)	午後2時	東京教区研修会(新横浜グレイスホテル)
17日(木)~23日(水)		春季彼岸会
22日(火)	午前10時	聖徳太子奉讃会・本山特派布教・春季永代経法要 布教使 仲井 秀明 師
26日(土)	午後5時45分	同行会修習式 法話 仲井 真裕
27日(日)	午後2時	中央ブロック会間法会(湯島天神・梅香殿)

西徳寺で初公演「イナンナの冥界下り」

このたび奉納上演いたします「イナンナの冥界下り」は、今から五千年以上も前から伝わっている世界最古の神話のひとつです。

本公演では、現在確認し得る最古の言語であるシュメール語と日本語で、そして現存する世界最古の演劇形式である「能楽(能・狂言)」を軸に、人形師、浪曲師、オペラ歌手、ライアー奏者、打楽器奏者というさまざまなジャンルの芸能者が相まって祝祭空間を創り上げます。

本作品は東京都(アーツカウンシル東京)の助成により、2017年にはイギリスの大英博物館、フランスのルーブル美術館などで上演すべく準備を進めております。

(能楽師・安田 登 記)

「イナンナの冥界下り」西徳寺公演

期 日：平成28年4月13日(水) 19時開演

入場料：5,000円(申し込み順先着 50名様限定)

予約申込は西徳寺まで **03-3875-3351** (担当：高橋)

編集後記

2月14日(日)、西徳寺本堂におきまして脇阪新住職「継職奉告法要」、並びに上野・精養軒に場所を移しましての「就任祝賀会」が盛大に執り行われました。これも偏に門信徒の皆様をはじめ、関係者の皆様のご尽力によるものと厚く御礼申し上げます。

今後は脇阪新体制のもと、西徳寺の護持発展のため精進して参りますので、これからも皆様のご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com

合唱団エコー 新年会

去る2月3日に合唱団「エコー」の新年会が、ご門徒でもある「汀」さんに開催されました。日頃ご指導をいただいている朝田祐子先生、金澤麻里子先生の他に、責任総代でもあります青柳庄一様にもお越しいただき、29名で楽しい時間を過ごしました。

恒例となった参加者一人ずつのご挨拶の中では、「2月・3月の演奏会を楽しく歌いたい」という抱負をいただきました。本年も合唱団という団を通して様々な取り組みが出来たらと思います。

(高橋 淳 記)

評議員会 新年会

去る1月17日(日)、午後3時より西徳寺本堂におきまして、評議員会新年会が開催されました。来賓として総代会から3名、会員20名参加のもと盛大に執り行われました。竹内乾一郎会長からは、2月14日(日)に勤修されました「脇阪住職継職奉告法要」並びに「就任祝賀会」における、会員の皆様への協力が求められました。

脇阪住職からは新年のご挨拶があり、本山が大遠忌法要に掲げたスローガン「南無阿弥陀仏は私のいのち」を通じて、門信徒の皆様と共に我が身を尋ねていくことを述べられました。

また来賓からは青柳庄一責任役員のご挨拶があり、住職の祝賀会における実行委員会の構成や役割分担など具体的な内容が述べられ、皆様からのご支援を促されました。

その後、会場を上野・伊豆栄「不忍亭」に移して懇親会が開かれ、とても美味しい食事に舌鼓を打ち、カラオケで大いに盛り上がり、とても賑やかな時間を過ごすことができました。

(木村 専正 記)

